

# 軟白ねぎ後作ミニトマト栽培導入への支援

～ ミニトマト導入による収益の確保 ～

(課題番号16)

◆活動年次：令和3～5年度

◆対象：JA門別ミニトマト新規栽培農業者（日高町）3戸

## 1 課題の背景

### 連作の悪影響

軟白ねぎの連作で、障害の発生や収量が低下していた。

### 労働過重



軟白ねぎのフィルム設置、ハウス内の移動等は重労働である。

### 軟白ねぎ農業者の減少

農業者の高齢化や労働過重により、年々減少していた。

軟白ねぎ施設の連作回避・作業軽減作物への転換のため、新たな振興作物が必要だった

ミニトマトを新規作物として導入  
新規参入者受け入れで、ミニトマトの担い手を確保  
・2戸は軟白ねぎ農業者、1戸は新規参入者（R3年まで地域おこし協力隊）  
・現在2名の地域おこし協力隊が、ミニトマトでの新規参入をめざし、研修中。

普及活動のねらい：ミニトマト導入で収益を確保  
（R4年度目標販売額 100万円/10a 2戸）

### 支援体制と関係機関の役割分担

関係機関	役割
町	新規就農者誘致と就農支援、地域おこし協力隊受け入れ
JA	既存組合員誘致、新規就農者誘致、地域おこし協力隊の実習管理、選果場の設置と運営、販売
普及センター	栽培技術支援、生産体系助言、新規参入者・地域おこし協力隊の育成

## 2 活動の経過

### (1) 経過

農業の経験年数に応じた、栽培技術の支援を行った（土壌・栄養診断結果に基づいた施肥管理、病害虫防除（斑点病等）助言等）。

また、新規参入者と地域おこし協力隊2人の育成のため、調査や基礎研修会の参加を促進した。

実施月	方法	回数	延べ戸(人)数	内容
4～5月	巡回	3	5	施肥設計および作付け計画打ち合わせ、ほ場確認、
6～10月	巡回調査	12	31	育苗管理・定植作業、ほ場準備、栽培管理、栄養診断と追肥、病害虫防除、ハウス温度管理の助言
6月	巡回	1	4	軟白ねぎ栽培農業者へのミニトマト作付けの意向聞き取り
11月	調査	1	3	根張りおよび土壌断面調査
12～3月	集合	6	16	栽培基礎研修(病害虫防除、ハウス設置、施肥設計) ※農村ゼミナール、スマイルトマト女子会研修会への参加
5～3月	連携	随時		JAと連携(「病害虫防除ガイド」の整理、研修会参加促進、意向調査巡回)

### ミニトマトの導入実態

#### 導入された作型と栽培方法

作型区分	作型	時期		品種	仕立て本数	誘引方法	選果販売方法
		定植	収穫				
1	促成	3月末	5～7月初旬	キャラル10	2本	直立	共選・共販
	↓(7月に切り替える)						
	抑制	7月上中旬	9～11月初旬				
2	半抑制	6月中下旬	8～10月末				

### 農業者の営農形態と導入作型

農業者	営農形態等	作型	栽培年数
A	ミニトマト専業 (元軟白ねぎ栽培)	R3年：半促成 R4年：促成+抑制	2年目
B	軟白ねぎ ミニトマト	半抑制	1年目
C	ミニトマト、アスパラガス 新規参入(R3まで地域おこし協力隊)	半抑制	1年目

### 3 活動の成果

#### (1) 成果

#### 3戸が目標販売額を上回った（目標販売額100万円/10a 目標戸数2戸）

栽培技術の状況と10aあたり収量、および今年度の感想

農業者	栽培技術			収量(kg/10a)		目標に対する販売額	収量・販売額の満足度	今年度の感想
	施肥管理		病害虫防除	R3年度	R4年度			
	土壌診断に基づいた基肥	栄養診断に基づいた追肥						
A	○	○	○	4,500	5,600	◎	○	◎2年目なので、栽培に慣れてきた。 ▲体力的に難しい時期もあった。
B	○	○	○	-	5,200	◎	○	◎ミニトマトは、ねぎよりも労働過重は少ない。 ▲予想していたより収穫作業に時間がかかる。
C	○	○	△	-	4,900	◎	○	◎（初年度にしては）目標を達成できたと思う。 ▲斑点病が多発し収穫終了が早くなった。 ▲収穫期の労働力不足

収量・販売額は「ますます」。満足度が栽培意欲につながっているよ。



※施肥管理 ◎: 診断結果に基づいて行った、○: 診断結果を参考にした、△: 診断結果は活用しなかった

※病害虫の発生(特に斑点病) ○収量に影響なかった、△: 収量に影響した

※目標に対する販売額と満足度 ◎: 上回った(非常に満足)、○: やや上回った(ますます)、□: 同程度、△: 下回った

※今年度の感想 ◎よかった点、▲問題となった点

#### 新規参入者+地域おこし協力隊2人は、調査や普及センターの基礎研修会に熱心に参加（参加率89%）

基礎研修会の内容	出席者数(人)
病害虫防除	2
ビニールハウス設営	3
施肥設計(2回)	のべ5
育苗	3
定植	3

基礎を学ぶ良い機会になっている。次年度の栽培に活かしたい!



新規参入者

実習先に相談し、休みをもらって、参加している。



地域おこし協力隊

ぜひ、勉強してほしい。

J A

#### (2) 残された課題

##### 収穫期の労働力不足が共通の悩み

花数は1花房40花程度が適当と言われている。A、B、C農業者とも花数は多い（B農業者は達観）。花数が多いと小果になりやすく、収穫時期もばらつき作業に時間がかかる。

##### 2戸の第1花房～第3花房の花数

	区分	第1花房	第2花房	第3花房
		花数(個)	花数(個)	花数(個)
A農業者	主枝	73	102	96
	側枝	65	98	49
C農業者	主枝	51	60	80
	側枝	51	58	61

花数が多いのに驚いた。次年度は花数制限に取り組みたい。



##### 斑点病を始めとする病害虫の適期防除が、収穫期確保のカギとなった

初期防除を含む防除の遅れから、1戸が収穫終了を早めた。

「キャロル10」は食味はよいが、斑点病に弱い弱点あり。



### 4 今後の対応

次年度は①管理作業の適正化、②病害虫（特に斑点病）の適期防除の実践を支援し、目標（販売額250万円/10a、5,000kg/10a）をめざす。